



静岡空襲合同慰霊祭に参加

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、6月23日（土）、賤機山公園（静岡市）で実施された「日米合同慰霊祭」に参列した。

これは、静岡市在住の医師・菅野寛也氏が主催し毎年行われているもので、先の大戦における静岡空襲の犠牲者及び同空襲において墜落した2機のB29搭乗員を悼む慰霊祭。今年も沖繩慰霊の日と同日となった。

慰霊祭には、静岡空襲の遺族や自衛隊静岡地方協力本部、板妻駐屯地第34普通科連隊（御殿場市）、滝ヶ原駐屯地普通科教導連隊（御殿場市）及び静浜基地第1飛行教育団（焼津市）から自衛官等約40人、アメリカ軍横田基地（東京都福生市）から米空軍所属の軍人約40人が参列した。

当日は朝からあいにくの雨模様であったが、厳かな雰囲気の中、仏教式の読経と焼香、米軍の従軍牧師による祈禱、献花と献酒、そして自衛隊・米軍双方による鎮魂ラッパの吹奏などが行われた。

定免本部長は慰霊祭の中で、「日米双方の亡くなられた方への冥福を祈るとともに、先の大戦から73年の歳月が流れた今日の日米両国は固い絆で結ばれ、日米同盟が果たす役割はますます増大している」と挨拶した。



教職員が3カ月の訓練成果に驚き

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、6月26日（火）、陸上自衛隊駒門駐屯地及び富士駐屯地（ともに御殿場市）で行われた「平成30年度静岡県教職員等連絡会議」に、高校等の教職員を引率した。

これは、地本が毎年県内の高校教諭等を対象に、自衛隊の採用制度及び募集状況などの理解を深めてもらい、生徒の進路指導等に反映してもらうことを目的に実施しているもの。今回は、静岡県内から16人の教職員が参加した。

午前中は、駒門駐屯地において、静岡地本募集課長の伊東宏之二等陸佐が自衛官等募集の現況や各種募集種目などの特性について説明を行い、続いて同駐屯地第1機甲教育隊総務科長の上野1等陸尉が、新隊員教育の概要などについて説明した。上野総務科長は「自衛隊は人との助け合いを学べる場であり、再就職先でもその経験を生かせる。ぜひ各校生徒にも伝えてほしい」と語った。

その後、今春入隊し間もなく教育隊を卒業する県内出身の一般陸曹候補生10人との懇談が行われ、教職員からの質問に対し候補生は「入隊前は厳しい印象があったが、実際入隊してみると仲間と一緒に乗り越えられるので楽しい」「時間厳守の大切さを学んだ」など、入隊から3カ月間の経験を自信をもって答えていた。

また、富士駐屯地では、富士病院や資料館、生活隊舎、歴代の陸自戦車等の見学が行われ、教職員は最新鋭の16式機動戦闘車なども見学し、陸上自衛隊について理解を深めていた。

参加した教職員からは「たった3カ月間訓練しただけでここまで頼もしくなるものなのかと驚いた」「装備品もIT化が進み、理工系などの学校で学んだ内容も自衛隊で生かせる時代になってきたことを実感した。生徒に伝えたい」といった声が寄せられた。

静岡地本は、今後も各学校等と積極的に交流し、自衛隊に対する正しい認識と理解の向上に努め、学校に対する広報の充実を図る。

